

「発達段階に応じた集団の学び」と「できる限り地域に学校を残す」ことを考慮した

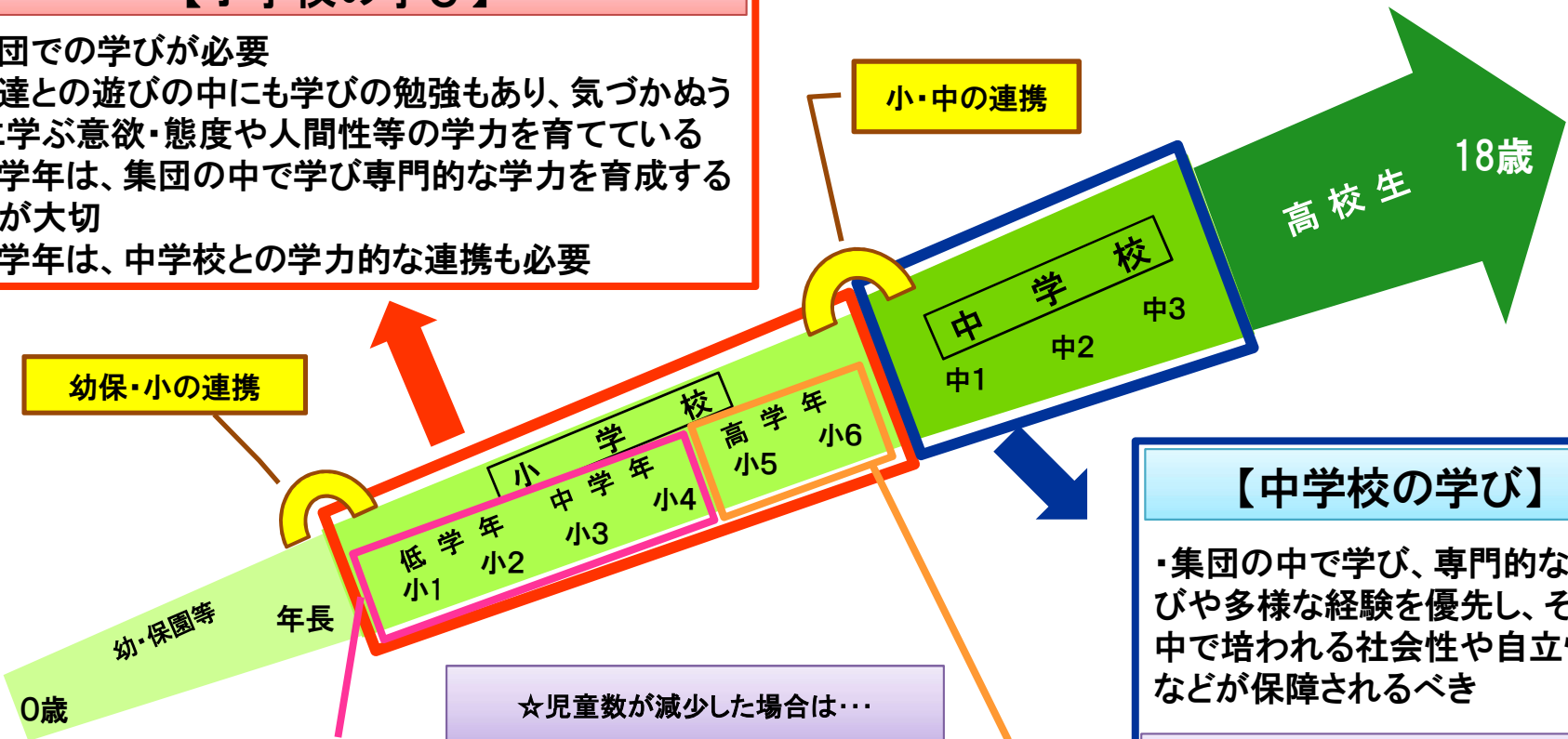
発達段階に応じた「新たな学びの場」のイメージ(案)

【小学校の学び】

- ・集団での学びが必要
- ・友達との遊びの中にも学びの勉強もあり、気づかぬうちに学ぶ意欲・態度や人間性等の学力を育てている
- ・高学年は、集団の中で学び専門的な学力を育成することが大切
- ・高学年は、中学校との学力的な連携も必要

小・中の連携

幼保・小の連携



☆児童数が減少した場合は…

【低・中学年は…】

- ・少人数であっても、地域の見守りの中で子どもが育つことや通学距離の問題も配慮が必要ではないか
- ・他校との交流行事・授業、異年齢交流や地域・幼保園との連携により集団の確保が必要ではないか

【高学年は…】

- ・学年に複数の学級があることが望ましいのではないかと

☆生徒数が減少した場合は…

【中学校の学び】

- ・集団の中で学び、専門的な学びや多様な経験を優先し、その中で培われる社会性や自立性などが保障されるべき

- ・小学校高学年より大きな集団が必要ではないか